

科目名	心と行動Ⅱ	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群	
			全学科	□必修 ■選択
英文表記	Psychology Ⅱ	開講年次	■1年 2年 3年 4年	
			開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
ふりがな	みつだ もとお	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	光田 基郎	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	心理学Ⅱは教員と公務員心理職を目指す勉強の基本を重視しますが心理学初心者も受講可能。戦禍の映像を見た反応は下記の水準の課題で研究されます。吐き気なら生命の水準(医学)、恐怖(意識の水準=心理学)、株買い占め(精神=意識を持つ者同士の関わりの水準=経済学・法学・文化人類学)、人間尊重:実存の水準=哲学、倫理学、宗教学)など行動の様々な水準で上記の反応が生じる。心理学研究は、人と動物の意識の水準で行動の原則を学び、実験・調査・心理治療を通じて行動改善に努めます。			
到達目標	上記の意識の例:(1)ヤンキーがSカーブで追突事故の原因は(1)Sカーブでは同一の赤信号が道端の鉄柱の両側に見え隠れするゆえ、どの運転者も赤信号と沿道のネオンとを混同しやすい。このヤンキーが意識した道路状況も現実の距離と違った。(2)どのヤンキーも低学力や家庭事情から周囲との関係で自尊心を低下させ、「暴走は恥」との意識で自重し難いゆえ乱暴な運転。以上の様に事故や非行や投票の当事者の意識内容と結果との因果関係を考えて事故や市場対処の基本を知るのが授業の目的。			
授業概要	下記の心理学の各領域別にDVDや各自のスマホ画面で検索可能なソフトと基礎実験を併用した授業を予定。毎時間予習・復習用教材を当学ポータルに置きます。公務員や教員の採試問題(skyosai.com)、心理統計自習( <a href="http://kogo.lab.chillout.jp/elearn/hamburger">http://kogo.lab.chillout.jp/elearn/hamburger</a> )などスマホやインターネットでの無料の自習教材も適宜紹介予定。評価は上記の実技への参加態度(画面での絵本読み聞かせへの反応記入内容、大画面で図形操作するデモ実験参加など)と、期末試験成績(論述式でパニックの心理(阿部北夫著、新書版)抜粋プリントを配り、パニックや事故対応策の論述)を総合します。			
授業計画				
第1回	意識と知覚:「韓非子」を「韓国の非行少年」と答えて笑われた様な経験が多い子は「良い子」の自己像を失い、恥の意識での自重は困難。非行の心理学的研究は恥の意識調査や面接結果と非行歴との対応付けが焦点となる。人が意識した外界のイメージと現実の差が事故の原因との視点で、意識された外界の反映である知覚を概説。スマホ、パソコンでNTT HP (IllusionForum) →錯聴→言語音→逆転)などを見て、知覚研究が事故や弱視・難聴対策と知る。			
第2回	言語:自動翻訳や思考(コンパ準備で1000円で大量のつまみを買う方法のプログラムや翻訳)などAI利用の基本を学ぶ。聴覚障害児はカラスを「アダウ」と発音して「物には名前がある」と理解出来るが昔話で「あの世と娑婆」と聞いても具体的イメージ不足で理解困難。失語のDVD併用で音声と象徴(聴覚障害児は人の口の動きを模倣してアダウの音声でカラスと伝達。どの子も周囲と交流する間に話し言葉を学んで9歳の壁—9歳過ぎに抽象的な言葉が必要)を越える。忠臣蔵を電算で英訳する時、文法の主語—述語の枝分かれ構造に「浅野」「の」「家来」「が」「悪い」「吉良」「を」「殺す」の各々をプログラムが選択的に割り当てて文を作る。パソコン画面で実行。			
第3回	学習1:漁港周辺のカラスは交差点で信号停車したトラックから魚を盗む習慣が身に付く。DVD併用で学習は経験による行動傾向の獲得で、人格—行動—学習の連鎖で性格も、非行・迷信も学習される過程を理解する。画面に星型を映し、鏡に写る映像が前後逆転すると同様に上下が逆になる様に設定して鏡影を画面に描写する実験では、鏡を見てメイクする女性は男性より上達が早い結果から、運動の学習が後の学習に正または負の効果を生じる転移の過程を学ぶ。			
第4回	人格—行動—学習の連鎖とその障害への対応に際して、学業不振や抑うつの原因の考え方のスタイル(努力、能力、困難度、運のいずれのせいにするか)により意欲が変動と知る。失敗が重なっても、努力不足と不運が原因と理解すれば次の機会に期待出来るが、能力不足や課題が困難では無力感を体験する。この様な原因帰属観と抑うつ感について学ぶ。			
第5回	記銘学習:10人1組の伝言ゲームでの伝達実験とDVDを通じて記憶は電算メモリとは違って、人が知識を活用して過去の経験を再現する機能のゆえ、記憶や目撃証言の変容も見る人の意識や要求に従って変容と理解する。			
第6回	思考1:考え方の上手下手は問題を認知・理解し、何と取り組むかを判断して反応する努力と、多方面にアイデアを展開する柔軟な思考の習慣で決まる。一例で駅の改札機はベルトコンベアの出口ほど幅を狭くして両側に算盤玉を並べるから、乗車券が投入後にベルトの両側の算盤玉に当たれば次第に縦向きに流されて出口では全て縦向きに通って文字が読み取れる。これは技術者が釣りの途中で、川を流れる落ち葉が両岸に当たっては次第に縦向			

	きに流れる動きを見ての着想である。
第7回	思考2：全ての計画も欺きも課題達成に向けて画面で現実を操作すればその内容も分かりやすい。ゴルフで1ホール目10円、2ホール目20円の倍々ゲームに誘われて16ホール目までに多額の賭博参加の危険を示すには画面に四角形を描き、縦の辺だけを2倍にして重ねていけば危険と分かる。縦の辺を1/2にして重ねれば、次々に薄い四角形が重なり最後は直線となって高校数学の極限を図示可能。実技は5人一組の集団課題達成も予定。
第8回	思考3：知能（脳の機能に規定された生理的知能、検査で測定可能な学習可能性である心理的・社会的知能と人生観・死生観にも関連する知恵の3領域）と知的発達障害についてDVDを併用して概説し、受講生が各自のパソコンで自分の社会的知能を測定する。DVDで脳の活性化と障害も学ぶ。
第9回	動機：行動の原動力である動機について概説し、あいまいな絵に投影された「何かを達成する動機」を測定する検査実技で目標を目指す具体的な計画と準備の必要性を指摘する。
第10回	人格発達1：乳児期は無条件の依存を経験して、空腹感、不安感を表現した時に母親とその代理者に応答と対処をしてもらえた経験から外の世界を信頼して働きかける基本的信頼感を学び、自己不信・他者不信を予防しながら言葉でのコミュニケーションの世界に進む過程が発達課題となり、失敗は無力感・不全感とDVD併用で学ぶ。
第11回	人格発達2：幼児期の課題は自己主張と自己抑制の平衡であり学童期は劣等感と自尊心の平衡が必要と概説する。ドラえもんはわがまま劣等感—自己顕示欲—暴力、スネ夫は意思表示を否定されたい—劣等感—自己顕示欲—強者追従でのいじめと非行追従、しずかちゃんも出来杉も良い子に徹底して意思表示せずに自己像肥大—（勉強マシンの不全感・羞恥心—独立欲求—カルトや悪人依存の家族拒否や成人女性への変身拒否。のび太の逆で強情（意思表示）—羞恥心（恥の意識）—独立要求が正常と理解。実技はストレス調査
第12回	人格発達3：思春期の課題は明治維新と同様、内（侍経済に代わる資本主義=性的成熟対応）外（黒船が外交を迫り、国の将来像が必要=自分の将来像を得て他人に対応する必要性）の変化に耐えて自分は何か、理想像は？と具体的に理解して自己同一性（過去、現在と未来を統合した自己像）実現を迫られる。この自己同一性検査で自己採点し、完成度を自己評価。40歳でも自己像確認の意図での無差別放火や殺人は自己同一性形成の失敗
第13回	人格発達4：社会人の行動原則は脱中心化と他者への信頼で、自分の役割を理解し実行（逆が受動的で他人から引き出されないと自分の長所を発揮不能、自分自身と他人を信頼出来ないから人と同じ行動を取らず、自分から挨拶したり人を褒めるのが下手で褒められては有頂天）。不幸な過去は消せないが言葉で振り返る自己制御が必要。カウンセリング本実技実施。
第14回	集団：いじめを題材に、集団規範への同調実験実技。援助での傍観者効果と3者関係のバランスを考えずに複数の敵を作れば集中攻撃される事と、不安から誰かの弱点を集中攻撃せねば落ち着けないのがいじめと説明する。（コロナ、学ぶ意欲など学生の様子を見て6月に繰り上げて、中間試験代わりのA4版1枚のリポート課題の説明にする可能性も・・・）
第15回	事故とパニック：同一の行動空間で、複数の環境意識で行動すれば（黄色のセンターラインの国道で同乗の女子学生計4人がふざけて、運転中に片手でバックミラーを動かす）一方の環境は瞬間的に脱落（黄色センターを割って逆走中に4人とも無関心）とパニック反応（群衆共通の不満、事態のあいまいさへの不安、不公平感など）が暴動の引き金となる過程を「パニックの心理」コピーを読んで理解する。
第16回	定期試験 事故とパニックの実例で当事者の態度についてコメントと評価を述べる論述試験
授業時間外の学習	心理学に限らず。自ら興味を持つ工夫をして課題に取り組みば気楽に学べます。単位さえ・・・では白ける。興味を持って取り組みば大学院や法務教官など専門職も可能。
履修条件 受講のルール	特になし。実技で人と一緒に課題達成する事もあるが、積極的に参加して人と気持ちよく作業する配慮を・・・出席カードには希望、疑問点など率直に記入して下さい。
テキスト	使用しない。資料プリントは大学の許容量の範囲内で全員に配布を予定。講義内容はポータルに設置
参考文献・資料	授業中に適宜、指示します。ネット上の便利な資料や問題集なども出来る限り授業中に知らせます。
成績評価の方法	出席、実験などの参加態度、A4版1枚程度のリポート（授業で話すいじめ対処を予定）、期末試験は事故予防、パニック対処の論述試験※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日、1限と4限以外は6F研究室にスクールバス最終便まで在室予定。心理学で進学、教職や専門職などの情報提供は可能な限り協力します。
成績評価の基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	学生諸君は大学を上手に利用して夫々の将来に備えて下さい。意欲と工夫次第で大化け可能。何となく大学に通うのではなく、答案やリポートで文章で自己アピール練習を・・・。